

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
2023年 5月 29日	
岩手県知事 達増 拓也 殿	
提出者 住 所 岩手県二戸市石切所字火行塚25 氏 名 ㈱十文字チキンカンパニー 代表取締役 十文字 保雄 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0195-23-3377	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	赤松第2ファーム
事業場の所在地	岩手県八幡平市平笠
計画期間	2023年 4月 1日 ～ 2024年 3月 31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	01：農業（畜産業 ブロイラー飼養）
② 事業の規模	年間生鳥出荷羽数 約 601,200羽
③従業員数	
④産業廃棄物の一連の処理の工程	・鶏糞→自社処理（醗酵処理）→醗酵鶏糞（普通肥料・特殊肥料として販売） ・鶏糞→自社バイオマス発電所にて燃料として使用→鶏糞燃焼灰（販売） ・鶏糞→自社醗酵工場にて燃料化（醗酵・水分調整）→バイオマス発電所にて燃料として使用→鶏糞燃焼灰（販売）



(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 廃棄物担当者 ↓ 産業廃棄物処理責任者 ↓ 産業廃棄物担当者			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	排 出 量	1,841 t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 飼育管理による水分率の低減、及びおが屑使用量削減。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	排 出 量	1,786 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 飼育管理による水分率の低減、及びおが屑使用量削減の継続。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	1,739 t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	102 t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 醗酵処理し堆肥化。(製品化) ・ 自社バイオマス発電所にて燃料として使用。(鶏糞燃焼灰は配合肥料原料及び肥料として販売)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	1,750 t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	36 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 醗酵処理し堆肥化。(製品化) ・ 自社バイオマス発電所にて燃料として使用。(鶏糞燃焼灰は配合肥料原料及び肥料として販売)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	全 処 理 委 託 量	0 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	全 処 理 委 託 量	0 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

赤松第2 ファーム

数値は、
上段: 前年度実績値
下段: 今年度目標値

有償物量

不要物等発生量

排出量

①	1,841	t
	1,786	

自ら直接再生利用する量

②	0	t
	0	

自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量

③	0	t
	0	

自ら中間処理した後再生利用する量

⑧	71	t
	25	

項目	前年度実績値	今年度目標値
① 排出量	1,841	t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	71	t
⑤ 自ら熱回収を行った量	1,739	t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	31	t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0	t
⑩ 全処理委託量	0	t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0	t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0	t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0	t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	t

自ら中間処理する量

④	1,841	t
	1,786	

自ら中間処理した後の残さ

⑥	71	t
	25	

自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分する量

⑨	0	t
	0	

④のうち熱回収を行う量

⑤	1,739	t
	1,750	

自ら中間処理により減量した量

⑦	31	t
	11	

直接及び自ら中間処理した後の委託処理量

⑩	0	t
	0	

⑩のうち再生利用業者への処理委託量

⑫	0	t
	0	

⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量

⑬	0	t
	0	

⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量

⑭	0	t
	0	

⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量

⑪	0	t
	0	